

第五商業高校 令和5年度 原価計算 年間授業計画

教科:(商業)科目(2年選択B 原価計算) 対象:(第2学年 A組・B組)

科目の目標

【知識・技術】原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連す

【思考・判断・表現】原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者と

対応する力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して

かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容
	原価の意味、原価要素の分類、目的	・商業簿記と原価計算の違いを教える。 ・製造業と商品販売業の違いについて理解できる。 ・原価の意味とは何か。身近な製品を例にして理解させる。 ・なぜ、原価計算を行うのか、企業の利益という観点から理解できる。
	原価計算の手続き、計算期間、種類	・原価計算の期間の違いについて理解できる。(売買業と製造業の違い) ・商品によって原価計算の方法が違うことを理解できる。
	製造業と簿記、製造業における特有な勘定、材料費の計算と記帳	・製造業には損益計算書、貸借対照表の他に製造原価報告書を作成する。その理由について理解できる。 ・製造業の特有な勘定について、販売業の簿記と区別ができるように両方の仕訳をして理解できる。(違いを理解させることが大切である) ・材料費の分類と計算方法に時間をかけて問題集を使用して、計算問題が解ける。
	材料費の記帳と計算	・記帳の方法について、問題集を使用して理解できる。重要なところなのでわからない場合には補習などを行う。 ・製品には棚卸減耗があることを理解させ、商品売買業との違い、処理の仕方についても理解できる。 ・消費数量、消費単価について理解できる。
	材料消費高の計算	・先入先出法、移動平均法、総平均法について表を作成して理解する。 ・材料の単価が変動するのであらかじめ購入単価を予定しておく場合がある。予定価格法について説明し、実際との差額が出てくる場合があることを説明し、処理の仕方を理解する。問題を解くことができる。

1 学期	材料消費高の計算 労務費の計算と 記帳賃金支払高	・差異勘定の復習をする。 ・労務費の分類、支払高の計算について説明し、計算ができる。
	賃金消費高	・支払高と消費高の違いを理解できる。 ・消費高の計算方法を理解できる。賃金には、 実際賃率と予定賃率があることを説明し、差額の処理の仕方が理解し問題ができる。 ・なぜ、予定賃率が用いられるのか説明をし、仕訳問題ができる。
	テスト	中間テスト: 労務費まで
	テスト返却 経費の計算と記帳	・テスト解説・経費の意味を教え、どのようなものがあるか、また意味、内容も教える。 ・経費削減が利益の増加につながることを理解できる。 ・支払経費、測定経費、月割経費の違いについて理解させる。問題が解くことができる。
	個別原価計算	・個別原価計算の意義について理解できる。(個人の注文による製品の生産) ・製造指図書の意味について理解できる。原価計算表の作成について説明し、理解できる。
	個別原価計算	練習問題を解くことができる。
	製造間接費の予定配賦	・製造間接費の配賦の必要性について、理解できる。 ・配賦の方法として計算法を説明し、問題を解くことができる。
	・製造間接費の予定配賦 ・復習テスト ・期末テスト	・復習のテスト実施。わからない生徒には、放課後、補習を行う。 ・問題集の問題を解かせる。 ・複雑になってきたので、期末考査の範囲の復習し、さらに理解度を高めることができる。
	原価の部門別計算	部門別計算の意味
	原価の部門別計算	原価部門の設定

原価の部門別計算	部門別計算の手続き
原価の部門別計算	個別原価計算の発展的内容を理解する
原価の部門別計算	部門別原価計算表
総合原価計算	総合原価計算
総合原価計算	総合原価計算の種類
総合原価計算	単純総合原価計算
2学期中間考査	中間テスト:単純総合計算まで

	総合原価計算	等級別総合原価計算
	総合原価計算	組別総合原価計算
	総合原価計算	工程別総合原価計算
	総合原価計算	仕損じ・副産物。作業くず
	2学期期末考査	総合的な問題に対応できる力を養う
	2学期の復習	2学期までの内容が原価計算の中心なので、しっかりと復習させる
3 学 期	全商簿記検定に向けた取り組み	作表・計算編 全商簿記模擬問題集を使い、既習の内容のわからない部分について、克服していく
	日商簿記検定に向けた取り組み	大問4編 日商簿記模擬問題集を使い、既習の内容のわからない部分について、克服していく
	学年末考査	全範囲

る技術を身に付けるようにする。

として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に

自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体

評価規準	知 思 態		
【知識・技術】 個別原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。			
【思考・判断・表現】 個別原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。			
【主体的に学習に取り組む態度】 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

	○	○	○
【知識・技術】 部門別原価計算、総合原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにす			

る。

【思考・判断・表現】

部門別原価計算、総合原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】

企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○

○

○

The diagram consists of a large rectangle divided into a 2x3 grid. The top row is shaded light blue, and the bottom row is shaded light orange. The left column is shaded light green. The rightmost column is divided into two equal parts, each containing a small circle.

合計

